



8月25日(日) 10時から

～防災隣組・結成10周年記念「互近助の心」～

防災講演会を開催

- 会場: FOSTER ホール(昭島市民会館・大ホール)
- 講師: 山村 武彦氏(防災システム研究所 所長)
- 入場: 9時40分～(入場時、配席は整理役員の誘導にご協力ください)
- 主催: コミュニティ協議会「まちづくり昭島北」

- ・2014年に東京都から「防災隣組」の認定を受け、10年が経過しました。この間も私たち地域では、毎年9月に瑞雲中生徒と“安否確認”を中心に防災訓練を実施してきました。
- ・講師は、当地域防災の取り組みの「防災隣組の構築」「互近助の精神」等のアドバイスを頂いておりますテレビでお馴染みの防災システム研究所所長の山村武彦氏です。
- ・貴重な機会ですので、ご家族・ご近所の皆様・ご友人とも、ぜひご参加ください。

「互近助の心」

防災・危機管理アドバイザー 山村 武彦

人間には「自分だけは大丈夫」と期待する心理があります。それは「正常性バイアス」によるものと言われています。バイアスとは、「思い込み・偏見」のことです。一方で、そのバイアスには心の安定機能もあります。小さな事に反応し続けていると心が疲れてしまうので、影響が少ない事であれば、これは大したことなく「正常の範囲」と判断・納得し、日常の不安や心配を減らす働きをします。

しかし、誤ったバイアスにとらわれると、重大なリスクを無視したり、過小評価してしまいます。例えば、火災報知器のベルが鳴っても確認せず、「点検でしょう」とか「誤作動だろう」と決めつけ、すぐに行動を起こさないのです。もし、本当の火災だったら逃げ遅れるかもしれません。

向こう30年以内の発生確率が70%の首都直下地震は、いつ起きても不思議ではありません。小さな揺れを感じた時、緊急地震速報が鳴った時、目の前に火があればすぐに火を消し、安全な場所への退避や玄関ドアを開け避難路確保等、普段から安全習慣があれば誤ったバイアスは払しょくできます。

そして安全が確認できた元気な人は、バイアスにとらわれているかもしれない隣人に声をかけます。必要ならほかの人にも協力を求めます。身体が不自由になれば、誰でも支えられる側になります。元気なうちは、できる範囲で支える側になっておきましょう。それが同じ時代、同じ地域で生きる者同士が支え合う「互近助の心」です。

<2023年12月発行の「つつじが丘北防災マニュアル」からの転載>

<まちづくり昭島北・構成団体> つつじが丘東自治会(1～5号棟)、つつじが丘西自治会(6～11号棟)、つつじが丘北自治会(12～25号棟)、プレイシア自治会、ポレスター昭島自治会、昭島つつじが丘ハイツ住宅管理組合(1～5号棟)、昭島つつじが丘ハイツ北住宅管理組合(12～25号棟)、プレイシア管理組合法人、昭島つつじが丘ショッピングプラザ店舗会